

新型コロナウイルス感染症

に関わる偏見や差別

新たな差別を生み出さず、
人権が尊重された社会をつくるために



- ◎新型コロナウイルス感染症に関わって、
どのような偏見や差別が起きているのでしょうか
- ◎新型コロナウイルス感染症に関わる偏見や差別は、
なぜ起きているのでしょうか
- ◎子どもたちと考えよう
～新たな偏見や差別を生み出さないために～
- ◎学びを行動力に
～偏見や差別による分断のない社会を創造するために～

子どもたちが安心・安全に学校園所生活を過ごすために

大きく変化した子どもたちの生活

新型コロナウイルス（COVID-19）の感染が世界中に広がり、私たちの生活は大きく変化しました。2か月以上の臨時休業を経て、分散登校が実施される等、今までの「あたりまえ」が変化し、子どもたちは様々な思いや不安を抱えたまま登校を続けています。

思いを言葉にできる子どももいれば、うまく表現することができない子どももいます。子どもたちの不安感を払拭し、安心・安全に過ごすことができる学校づくりをめざしましょう。

子どもたちはどのようなすがたを見せていますか？

子どもたちの不安をキャッチできていますか？

子どもたちの意見を聞くことができますか？

子どもたちが見せる言動の奥にはどのような思いが隠れているのでしょうか？

新たな差別を生み出さないために

社会全体に大きな不安が渦巻く中で、新型コロナウイルスによる脅威は、ウイルスへの感染だけでなく、様々な形で広がる偏見や差別などにも現れています。コロナ禍により、社会に元々あった偏見や差別の仕組みが明らかになってきたとも言えます。

偏見や差別に出合った際に立ち止まって考え、差別をなくしていける子どもたちを育むために何ができるのか考えていきましょう。

1. 新型コロナウイルス感染症に関わって、 どのような偏見や差別が起きているのでしょうか

新型コロナウイルス感染症の拡大の中で、感染者やその家族、特定の職業に就く人々、さらには特定の国や地域の人々等に対して、偏見や差別が生み出されています。

これらは明らかな人権侵害であり、断じて許されません。

●感染者や濃厚接触者に対して

- ・新型コロナウイルスに感染した家族がいる子どもが、同級生に「あいつの家族コロナ」「近づくともコロナうつるぞ」と言われた。
- ・学生の集団感染を公表した大学に「大学に火をつける」と脅迫するような内容を含む抗議などの電話やメールが数百件あった。
- ・感染による肺炎で死亡した人の家族が、「お前も感染者か」と聞かれたり、職場で避けられたりした。

●特定の国や地域に対して

- ・「〇〇人の入店おことわり」という貼り紙があった。
- ・「〇〇人を親にもつ子どもを登校させるな」という内容のはがきが学校に届いた。
- ・県外ナンバー車が、誹謗中傷やあおり運転をされたり、車体に傷をつけられたりした。

●医療従事者、特定の職業の方に対して

- ・子どもが通う保育園から登園を自粛するよう求められた。
- ・業者から引っ越し作業を断られた。
- ・感染者が出た病院が、シーツや枕カバーなどのリネン交換を業者から拒まれた。
- ・感染拡大地域を行き来する長距離トラック運転手の子どもが、学校に自宅待機を求められた。

●インターネット上の不適切な書き込み

- ・感染者が発生したスポーツ教室の参加者が通う学校について、校名や写真、感染者が発生したという内容がSNS上で拡散された。
- ・事実と異なる情報がインターネット上の掲示板等で拡散され、風評被害により来客が大幅に落ち込んだ商店があった。

2. 新型コロナウイルス感染症に関わる偏見や差別は、 なぜ起こっているのでしょうか

この感染症は、原因が未知のウイルスによるものであるために、人々に強い不安を与えています。もちろん真の「敵」は「ウイルス」ですが、その姿は見えないために、代わりに特定の対象を「敵」とみなし、嫌悪の対象とする心理作用が働きます。そして、「敵」とみなした対象に偏見をもち、差別し、遠ざける（排除する）ことによって、束の間の安心感を得ようとすると考えられています。

見えない「敵」（ウイルス）
への不安や恐れが生じる

特定の対象を「敵」とみ
なし、嫌悪の対象とする

嫌悪の対象に偏見をもち、差別し、
排除することで安心感を得る

偏見や差別が起きれば、人々は自分が差別されることを恐れ、感染した事実を隠す人も現れます。そのことから、受診を躊躇したり、職場や身近な人に伝えなかったりすることで、さらに感染が広がってしまうことにもつながっていくという「負のスパイラル」を生み出していきます。

（「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」（日本赤十字社）を参考に作成）

参考

大阪府教育庁では、「特定の国や地域に対する偏見、感染者や濃厚接触者とその家族、治療にあたる医療従事者とその家族に対する偏見や差別につながる行為は人権侵害であり、断じて許されないこと」、「教職員が新型コロナウイルスに関する偏見や差別・いじめ等を発見したり、児童生徒や保護者から相談を受けた」とときには、「一人で抱え込んだり、『これぐらいなら大丈夫』と判断することなく被害児童生徒等に寄り添い対応することとしています。あわせて、加害児童生徒に対しては教育的配慮の下、毅然とした姿勢で指導することはもちろんですが、一方その行為に至った背景、長期の休業に伴う家庭内ストレスや不安あるいは虐待等の要因も考えられることから、これらの可能性を考慮して支援していくことも大切」としています。

（「学校園における新型コロナウイルス感染症マニュアル」令和2年5月28日版 大阪府教育庁）

3.子どもたちと考えよう ～新たな偏見や差別を生み出さないために～

コロナ禍の中、子どもたちは不安が大きい状態のまま、学校園で過ごし、不安からくる様々な姿を見せたり、サインを出したりしています。教職員として、その姿をどう捉えているのでしょうか。まずは、丁寧に子どもたちの心の揺れを把握し、子どもたち一人ひとりに寄り添い、心の安心・安全を守っていくことが必要となります。

そして、子どもたちの実態に応じて、新たな偏見や差別につながる「負のスパイラル」を断ち切るために必要な取組みを進めていかなければなりません。

大阪府教育庁は、心の安心・安全を守り、正しい知識に基づき、偏見や差別が生じない取組みを進めるために、「新型コロナウイルス感染症に伴う差別等について考える教材及び学習指導案」を作成しました。

番号	タイトル	ねらい	対象
1	あなたなら どうする？	子どもたちが、新型コロナウイルス感染症についての悪口やいやがらせ等を互いにしないようにするために、自分ができることを考える。	小学校 低学年
2	泣いた園長先生	新型コロナウイルスに感染しないための正しい情報を確認し、偏見・差別を防ぐため、自分ができることを考える。	小学校 高学年
3	3つの感染症 -人の心の中の意識-	新型コロナウイルス感染症の「3つの連鎖」を断ち切るために、自分ができることを考え、行動につなげようとする。	中学校

(新型コロナウイルス感染症に伴う差別等について考える教材及び学習指導案：大阪府教育庁
http://www.pref.osaka.lg.jp/jidoseitoshien/zinken/jinken_kyouzai.html)



実践1「泣いた園長先生」

この教材は、報道されていたエピソードを元に、当該保育園の許可を得て作成したものです。

ねらい

- ・新型コロナウイルスに感染しないための正しい情報を確認し、偏見や差別を防ぐため、自分ができることを考える。

指導に当たっての留意点

- ・導入の際に出た意見が、単なるうわさか事実かを押さえておく。
- ・新型コロナウイルスに感染した子どもや家族がいる場合は、事前に学習内容やねらいを家庭に伝え、理解を得ておく。
- ・気になる様子の子どもには、その場で言葉かけを行い、後で必ず個別に気持ちを聞くなどする。

展開例

1. 新型コロナウイルスのことで知っていることを出し合う。
2. コロナウイルスに関わる、あるできごとについて考える。

ある保育園で、保育士さんが新型コロナウイルスに感染し、しばらく休園することになった。その後、保育園は再開されたが、毎朝一番に保育園に行っていた園長先生が、「あるもの」を見て思わず泣いてしまった。

3. どのようなことがあって、園長先生は泣いてしまったのか考え、交流する。

子どもの意見

- ・感染した保育士さんへの嫌がらせが起きたから。
- ・何か嫌なことを書いた貼りが貼ってあったから。

園長先生が見た「あるもの」とは…
保育園の門に一文字ずつ吊るされた
「がんばれ〇〇保育園」と書かれたメッセージ

4. 不安な中、応援の言葉をもらうことでどんな気持ちになるか考える。

子どもたちの反応

- ・世の中に新型コロナウイルスに感染した人たちを差別する人が多いから、熱があったりしんどくなったりしても知られてはいけない空気があるのだと思います。わたしたちの学校では「しんどい」と言えるようにしたいです。
- ・新型コロナウイルスは、人間の悲しい感情や行動、温かい感情や行動も、どちらも作り出すものなんだと思った。SNSで「(感染者を)見つけたりするのをやめよう」って言う人がいるように、感染した人のことも考えられるようになります。

4. 学びを行動力に ～偏見や差別による分断のない社会を創造するために～

子どもたちは「差別はいけない」ということはわかっています。しかし「差別はいけない」という理解だけでは差別はなくなりません。差別をなくすための行動を起こすことができたとき、人権教育の成果があらわれたと言えます。

人々が分断されない、人権が保障された社会を創造していくために必要なことは、見えないものに対する不安や恐れに反発しようとするエネルギーを、人を傷つけることに向けるのではなく、偏見や差別を克服するために「自分にでもできることがある」と考え、前向きな取組みを進めていくことです。

新型コロナウイルス感染症に関わる偏見や差別を生み出さないための実践を通して、分断のない社会を創造するために、新たな人権教育実践を進めていきましょう。

実践2 「偏見や差別を助長させないために」

休校中の子どもたちの実態をつかみ、学校再開後、被害者も加害者も出さないために学校全体で取り組んだ実践です。

ねらい

- ・自分が感染した時に、周囲にどうあってほしいか、感染した人やその家族の立場になって考える。
 - ・人を傷つけない冷静な行動を促す。
2. 動画『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～』（日本赤十字社）を視聴する。

展開例

1. 「コロナに負けない」とは

新型コロナウイルスは「いつでも、どこでも、だれにでも」感染する可能性があります。感染してしまった人のことを悪く言ったり、その人のことを責めたりするのはとてもおかしい話です。

「コロナに負けない」とは「1人の感染者も出さない」ことではありません。「誰が感染してもそんなことでのけ者にしたり、差別したりしない」ことが大切です。

3. もし、自分が病気になったときにかけてほしい言葉は？ かけてほしくない言葉は？

- ・励まし、応援の言葉
- ・差別的発言や責任の追及の言葉

4. 自分の行動について考える。

子どもたちの反応

- ・「そうなんや」「先生！それってなんでなん？」といった自発的な「知らないことを知ろう」とする姿勢が見えた。

実践3 「今できることを考えよう」

人権サークルの子どもたちが中心となり、コロナ禍の状況で、自分たちに何ができるのかを考え、教職員とともに授業をつくった実践です。

ねらい

- ・新型コロナウイルス感染症に関わる偏見や差別を広げないために自分たちができることを考える。
- ・偏見や差別について構造的に捉える観点をもつことができる。

展開例

1. すべての子どもを対象にアンケートを実施する。
(コロナ禍でどんなことに困っているか?)

〔子どもたちの声〕

- ・「勉強、部活動ができずにイライラする」
- ・「マスクの着用など制限が多い」
- ・「思いっきり遊べず、ストレスを発散することができない」
- ・「自分が感染したらと思うと不安が大きい」
- ・「いろいろとやる気がなくなる」 など

2. 自分たちにできることを考える。

〔考えるときの観点〕

- ・困っていることは、誰がどうすればよいか考える
- ・自分たちにできることについて考える

3. 考えたことをポスターで表現する。

〔標語の例〕

- ・自分の行動を振り返ってみませんか？
- ・差別につながる行動をしていませんか？



4. 子どもが各クラスで授業を実施する。

〔授業の観点〕

- ・おそれるべきはウイルスであって、人ではない
- ・病気を理由に人を差別したり、特定の職業などにレッテルを貼って排除したりすることは絶対に許されない

子どもたちの反応

- ・授業で、困っている人にどうしたらよいのか考えることができたからよかった。これからの生活の中で自分がどう行動すればよいのか考えることができた。

参考資料

府立学校における新型コロナウイルス感染症マニュアル（大阪府教育庁）
学校園における新型コロナウイルス感染症マニュアル（大阪府教育庁）
新型コロナウイルス感染症に伴う差別等について考える教材及び学習指導案（大阪府教育庁）
新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～（日本赤十字社）